

婦人地位委員会より

委員長 高桑花子

婦人地位委員会の仕事として、昨年来「家庭婦人の社会的活動に関する実態調査」を計画し、それを具体化させる為に委員一同努力を続けて参りました。何を計画しましても、經濟面の裏づけがない事が致命的な事でして、計画を検討しつつ資金面を探す努力は仲々容易な事ではありません。昨年夏以来、文部省に補助金を申請し、いろいろ努力した結果、幸にも今度補助金がおりる事になりましたので、早速調査研究を行なって居ります。公けの機関から補助金がおりました事は、J.A.U.W.と致しましても始めての事です。そこで、ひとつのまとまった報告書を発表致し度いものと委員一同努力して居ります。

(1) 個人の税法に就て

(2) 得税の規定がありま

(3) 既婚婦人の勤労所得税

(4) J.A.U.W.として貴国に就て

(5) 一九五八年以来税法の変更がありましたか。

(6) 以上の事に関しましてそれぞれ調査、研究し解

(7) 答致しました。

(8) 少女に対する職業の紹介

かせてはならない。

(5) 坑内労働についても満十八才未満の者及び女子の就労は禁止されている。

(6) 貴国の公けの職業訓練は定められた技能検定の一級試験に合格し、労働省令で定める訓練を終了した者

(7) 労働大臣の行う職種毎に定められた技能検定の一級試験に合格し、労働省令で定める訓練を終了した者

(8) 「解答」

照して審査をさせていただ

く予定でございます。

けれども審査の結果につれては大会前に理事会にかねてござりますので、おそ

いだときどきございます。

かねてその承認を得ることが必

要でござりますので、おそ

いだときどきございます。

くも三月十二日には基準委

員会をひらきます。したが

つて、その時までに書類のそろわない大学の分は来年

度にまわさなければなりま

せんのでその点御申込みおき

申上するまでもないことがな

ら、卒業期を前に、もう一

層の意欲を燃やして下さい

始しく、有難く存じます。

申上するまでもないことがな

ら、卒業期を前に、もう一

層の意欲を燃やして下さい

始しく、有難く存じます。

申上するまでもないことがな

ら、卒業期を前に、もう一

層の意欲を燃やして下さい

始しく、有難く存じます。

学校制度上よりみたる

わが国女子の大学教育（第1部）

京都光華女子短大 村田 鈴子

〔研究目的と研究方法〕

第二次大戦後学制が改革されて、男女共学の理念による教育の機会均等の結果、学校制度上、特別に女子教育を考えねばならない根本的差異はみられなくなった。ゆえに今日、すべて教育は大学に至るまで、男子と女子を分離して教育を考えなくなつたといえる。

力離してはえられなくなつたといふ。
もちろん現在でさえ男女は、経済的にも職業上でも実質的な平等は期待しがたい点もあり、それ以上に基本的な両者の生理的相異が教育にも反映せざるを得ないことは一面の真理である。けれども本来教育は、どこまでも男女平等の立場から考えられねばならないと思う。ゆえに私はこの観点にたって、今後のわが国の女子高等教育としての大学教育は、いかにあるのが望ましいかという問題について、まず制度的な面から研究してゆきたい。そのためには戦後的新学制に比較し、一方には明治以来の伝統的な教育制度によるものがあって、現在と過去とでは、制度においても性格や目的においても大きな変化がみられるこれを明らかにしなければならない。なぜならこれらを解明してゆく過程において、現在わが国の当面している女子の大学教育の種々の問題点があるのであり、将来これらを解く一つの糸口になつてゐるのでないかと考えるからである。現況に至るまでの変遷を述べてゆくにあたり、第一章では学校制度として考えられる大正時代の初期から、第二次戦以前の歴史的な女子の大学教育の流れをあとづけてみよう。

第一章 第二次大戦以前における女子の大学教育機関

第一節 旧制大学入学

わが国で初めて女子に大学教育を認めた東北帝國理科大学は、開学前の明治44年夏に「先例なき入学資格」を定めている。それは高等学校卒業生の他に、高等工業学校卒業生と師範学校、中学校の教員免許状を持つ者を同等の資格として入学試験を受けさせ、入学者を許すという決定であった。こうして入学者の門戸開放は、自由な学園としての高等教育へと進む。女子高等師範学校を築く伝統を作り、やがて女子高等師範学校や女子専門学校卒業生の入学を許容する翌年も可能性にもつながる考え方である。年初代総長沢柳政太郎氏は、日本の女子教育について談話を発表した中で、帝国大学令には女子の入学を禁止する規定はないから、明年度東北帝國大学では女子を入学させるつもりだと述べて世間を驚かせた。彼が彼が高等教育であるとしたことはすなわち専門教育にして職業教育であるとしたこと、それ故自活を志す人にのみ必要であるとしたことである。当時の女子教育に関する代表的意見であつた、「しかし」この進歩的な女子教育

意見であった。しかしこの進歩的な女子教育振興の動機は、当時來日していたハーバード大学総長エリオットの影響によるものだと考えられる。次の北条総長はこの建学精神を実行に移した。大正2年9月、5名の女子志願者の中から、牧田らく、黒田チカ、丹下むめの3名が合格、ここに女子が始めて帝國大学へ入学を許されたのである。要するにこれは「帝國大学令」を廻って、大学側では女子入学禁止の明文がないから入れてさしつかえないとして、文部省は明文はないが不文律、慣習として大学は男子学生のものというところから起こった見解の相異によるもので、大学側は速かにこの盲点について実行したのであった。諸外国と比較すれば、アメリカはわが国より約70年位早く、英、仏は大体同期でわが国より約40年位早く、独とわが国とは大体同時期ということがいえる。しかし「国家ノ須要ニ応スル学術技芸ヲ教授シ……」と規定されていた当時の帝國大学への女子入学は、よほど驚嘆すべき事件であったことは確かである。東北の他、北海道や九州帝國大学も女子の入学を許したし、大正7年「大学令」で私立大学が作られると、東洋大学や明治大学が生誕をつけた。

次に女子の大学教育の過渡期に適した方法と考えられる聽講生制度が、大正8年慶應大学医学部、大正9年京都帝国大学医学部、東京帝国大学文学部に布かれ、この制度を女子は自由的に利用していく。

は自発的に利用している。女子の大学教育も昭和に入ると、漸次本格的に考えられるようになり、大学における男女共学の請願が昭和8年3月貴衆両院において採択されたが、結局法令に規定されるに至らず、その後も帝國大学への女子入学についてはあいまいなままにすぎず。昭和13年度においてさえ女子学生は120余名にすぎず、戦時体制がととのうにつれて、大学教育に対する傾向の変遷とともに、女子

第二節 女子中学校設立案

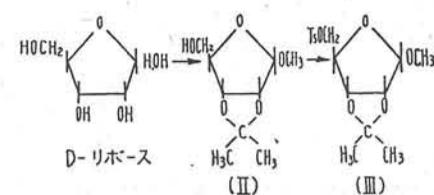
第一期 女子大学設立案
大戦後女子の専門教育機関が發展し、
「然起」ってきたのが女子のみの
うとする動きであった。女子
の教育者間に唱えら
総合大学設立の
や卒業者団体が
「女子大學」

(1961年度奨学金受賞学徒の研究)

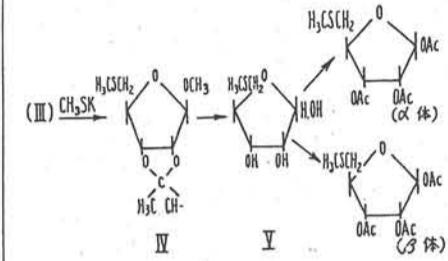
アデニルチオメチルペントースの

合成法に関する研究

東京工業大学 石 倉 洋 子



図に示したように D-リボースを既知の化合物Ⅱに導きさらにⅢに導き、これにメチルメルカプタンを作用させて5-メチルチオ誘導体Ⅳにして2, 3位の保護基を除き(Ⅴ)、これを常法にしたがいアセチル化する。

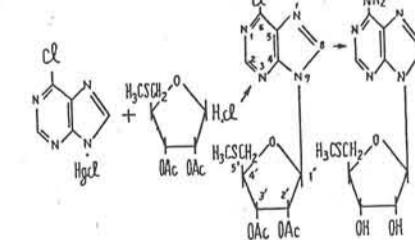


アセチル体として得られるものにmp66°を示す結晶と無色のシロップ状物質が得られ、これらは元素分析値は一致し旋光度の値から結晶体が β 体 ($[\alpha]_D = -26.7^\circ$) シロップ状物質が α 体 ($[\alpha]_D = +26.1^\circ$) であることが分った。プリン塩基の金属塩と縮合させる糖のハライドを作るためには β 体が都合がよいので、この β 体の結晶をエーテル中塩化水素で塩素化する。このようにして求める糖誘導体を得たのでこれを種々のプリン塩基の金属塩と総合させた。

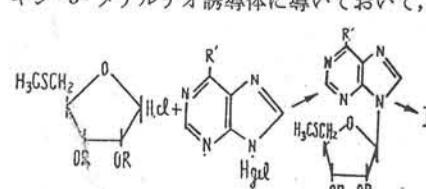
テオフィリン, 2-メチルチオアデニン, 2,8-ジクロラルアデニン, 6-クロルプリン, 6-アセンの場合最も簡単と考えられるのはテデニンと縮合させることであるが, テデニンの金属塩と糖のハロゲン塩を縮合させててもきわめて縮合しにくく, 縮合体は根跡程度しか得られない。

チルアミノプリンなどの銀塩又は塩化水銀塩と縮合させてそれぞれ5'位にメチルチオ基を有するヌオレオシドを得た。これらはいずれもアデニルチオメチルペントースのプリンアナローグであり、これからさらにアデニルチオメチルペントースに導くことを試み6-7クロルプリンと6-アセチルアミノプリンの場合にはこれに成功した。

すなわち6-7クロロプリンの塩化水銀塩と前述の2,3-O-アセチル-5-デオキシ-5-メチルチオロリボフラノシリクロリドを作用させて得られた縮合体にアンモニア性メタノールを作用させると2',3'位のアセチル基が除かれると共にプリン核の6位の塩素がアミノ基に



かわり天然のアデニルチオメチルペントースと一致する化合物が得られた。6-アセチルアミノプリンの場合も全く同様で^{2',3'位}のアセチル基を加水分解するとき、同時に6位のN-アセチル基もはずれてアミノ基となり目的のアデニルチオメチルペントースに導くことができた。このようにして糖の誘導体とプリン塩基から出発する新しい合成法によりアデニルチオメチルペントースを得ることに成



そのハロゲン化物とプリン塩基の金属塩を縮合させるとする方法である。そこで先ずD-リボースの5-メチルオウ誘導体の合成について述べる。D-リボースの水酸基がメチルオウ基でおきかえられた糖は天然のアデニルオウメチルペントースを加水分解することによって得られているが D-リボースから導く方法は知られていない。

